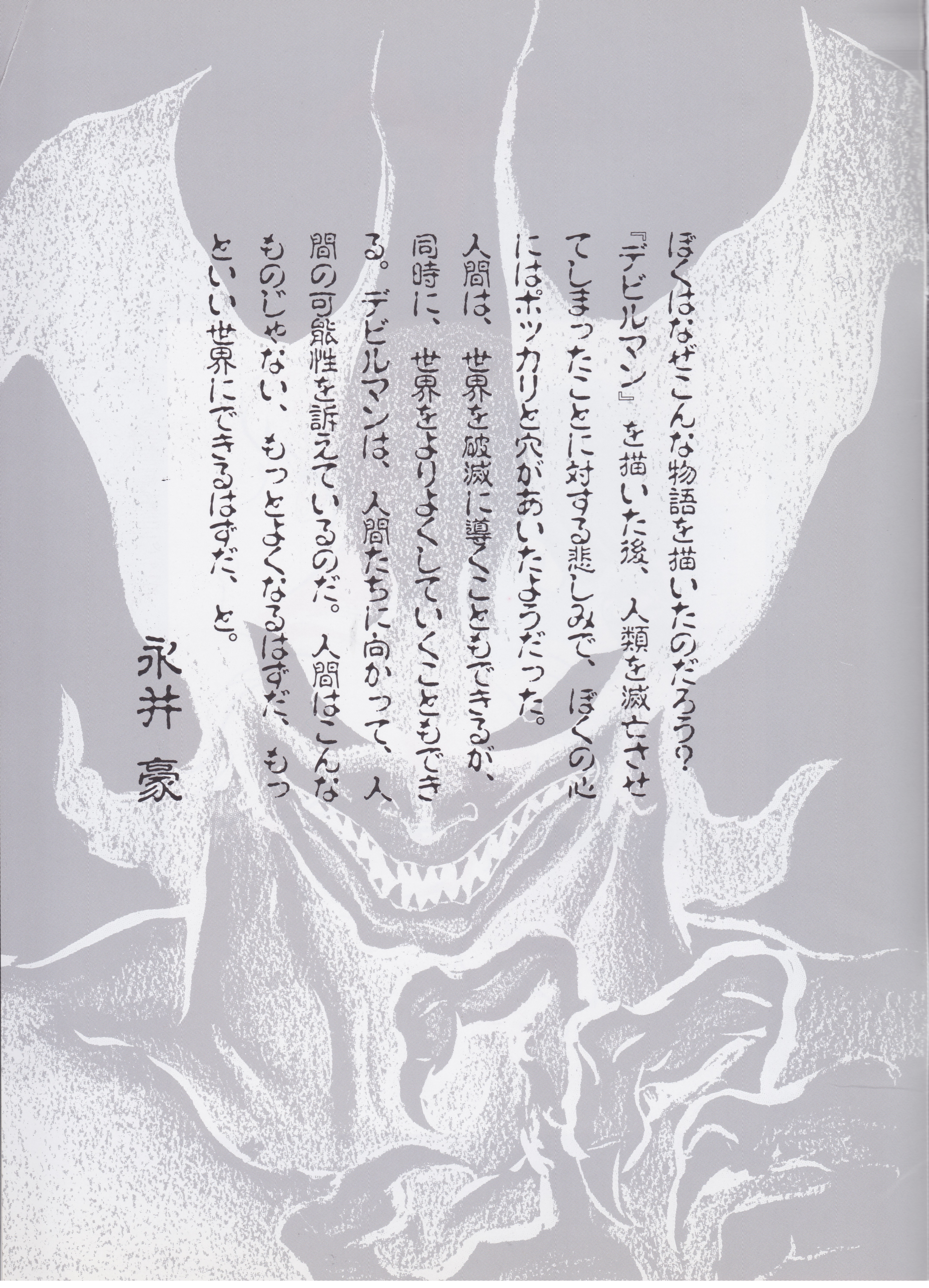
DEVILMAN OFFICIAL BOOK





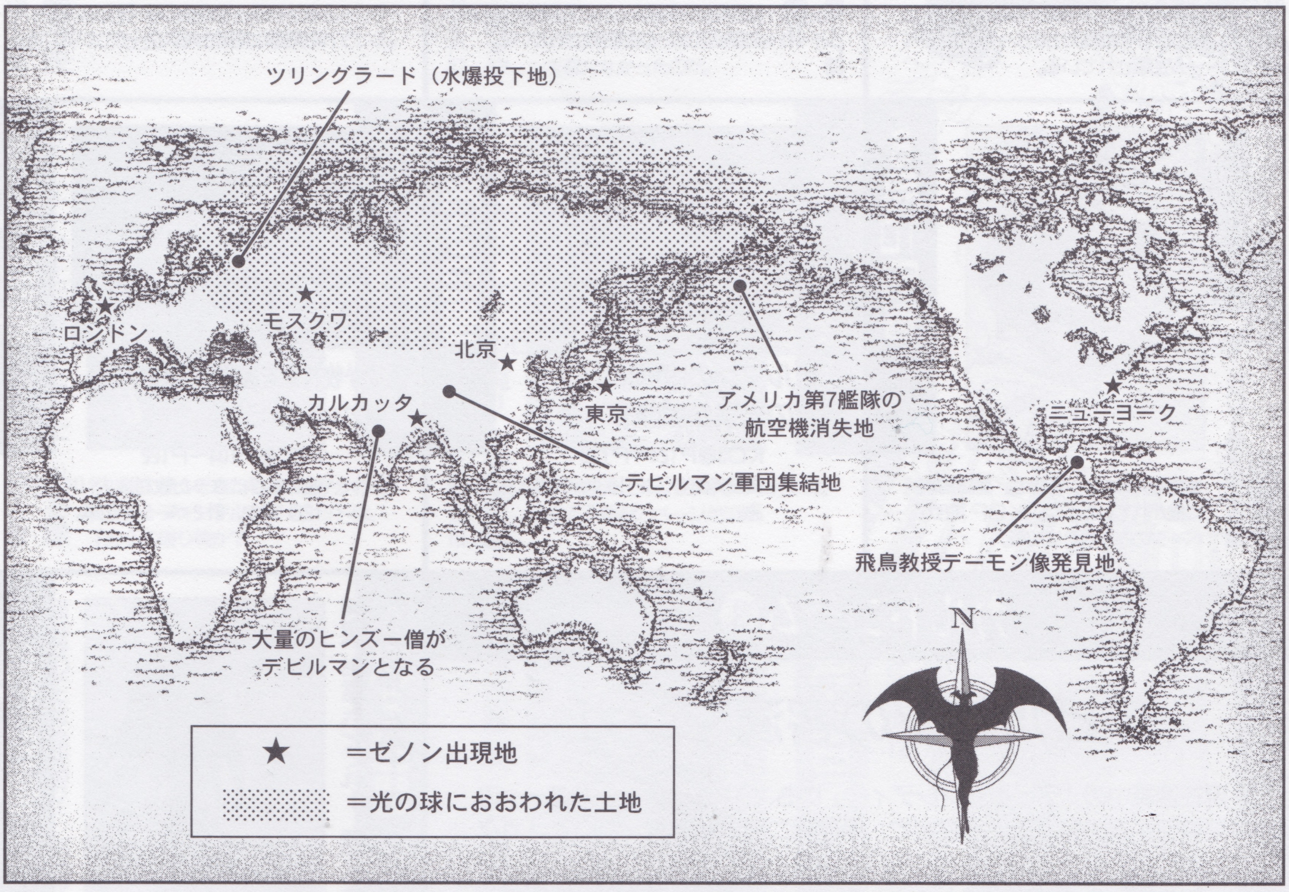
ぼくはなぜこんな物語を描いたのだろう？『デビルマン』を描いた後、人類を滅亡させてしまったことに対する悲しみで、ぼくの心にはポッカリと穴があいたようだった。

人間は、世界を破滅に導くこともできるが、同時に、世界をよりよくしていくこともできる。デビルマンは、人間たちに向かって、人間の可能性を訴えているのだ。人間はこんなものじゃない、もっとよくなるはずだ、もっといい世界にできるはずだ、と。

永井 豪

デーモン族侵略地図

氷の世界から甦り、人類を恐怖の底にたたき落とした悪魔＝デーモン。
復活から最終戦争までの軌跡



デーモンが人類の前に、公然と「人類以外の知的生物」として姿を現すのは、魔王ゼノンによる宣戦布告が最初である。

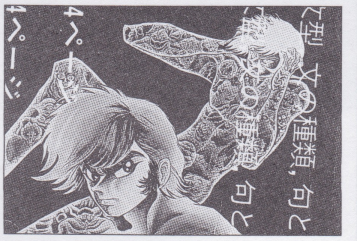
ただし、それまでもデーモンは、たびたび人類の前に姿を現していた。不動明がデビルマンになるころには、「獣に食われたような」傷跡をもつ人間の変死体が数多く発見されており、社会問題になりつつさえあったのだ。すでにかなりの数のデーモンが人間世界に潜伏し、侵略の機会をうかがっていたのである。

ソ連領ツリングラードの占領、その後の水爆投下と同時に、魔王ゼノンは世界の主要都市に現れ、人類にたいする宣戦布告をする。ここで「近代兵器対デーモン」の戦争がはじまり、人類ははじめて、デーモンの脅威を目の当たりにすることになるのだ。

デーモンはモスクワを占拠したのち、アメリカほか西側諸国に向かって核ミサイルを発射、人類を一網打尽にしようと試みる。しかし、これは突如ロシアの上空に現れた「光の球」によって阻まれた。デーモンによる侵攻劇は、これで幕を下ろす。その後起こる人類の滅亡は、デーモンによってではなく、人類自身によって引き起こされた。人間の心に潜む不信・不安・疑心暗鬼という名の悪魔が、人類を滅亡へと追い込んでいくのだ。

人類の滅亡から二十年後、人間のいなくなった広大な中国の大地に、デビルマン軍団が集結する。地球の覇者がデビルマンかデーモンかを決定する、最終戦争のはじまりだった。これは、不動明と飛鳥了の、愛憎の戦いでもあった。

5月6日号



親友　飛鳥了が　明をうらぎる!!　いよいよ最高潮!!

KC5巻P43～P62

カラー扉。この号には『デビルマン』の豪華な見開きポスターがついていた。

5月13日号



うらぎった了と　不動明が対決!!

KC5巻P63～P83

この号に、3話オムニバス恐怖短編『霧の扉』50ページが併載されている。

5月20日号



デビルマン軍団　攻撃開始!!

KC5巻P84～P103

悪魔特捜隊との死闘、および牧村家に襲いかかる暴徒たちのシーンが計3ページ加筆されている。

5月27日号

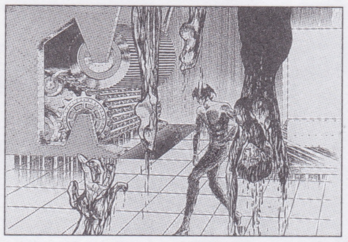


暴徒が牧村家を襲撃!!　美樹タレちゃんあやうし!!

KC5巻P104～P122

逆さ吊りになった牧村夫人（KCP122）ほか、計2ページの加筆。

6月3日号



デビルマンの眼前に地獄の光景が展開!!

KC5巻P124～P142

戦う美樹（KCP133）が加筆されている。

6月10日号



美樹　惨殺か!?

KC5巻P143～P168

美樹の死のシーンのうち、雑誌掲載時に描かれていたのは、KCP160の1ページのみ。残りは加筆。

6月17日号

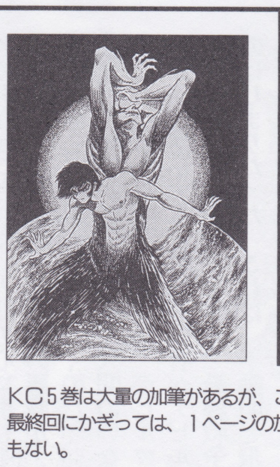


美樹、生きていてくれ！　愛する美樹のもとへひた走る明!!　だが……!?

KC5巻P169～P193

扉は中盤にある。美樹の生首（KCP170）ほか、合計6ページがコミック化にあたり加筆。

6月24日号



明と了の愛憎　激突!!　ついにむかえた最終回!!

KC5巻P194～209

KC5巻は大量の加筆があるが、この最終回にかぎっては、1ページの加筆もない。

カルトコラム③

デビルマンの客演マンガ

現在連載中の『デビルマンレディー』にも、『キューティーハニー』の早見青児記者の息子という設定で、早見青二刑事が出演、ついで『ガクエン退屈男』の早乙女門土がSSOC隊員として登場と、豪ちゃんマンガは別作品からの客演がことのほか多い。もちろん、不動明と飛鳥了、牧村美樹も例外ではない。様々な作品に出張しては、それなりの活躍をしてファンを喜ばせている。

なかでも、もっとも彼らが活躍するのが、『おいら女蛮』（'74年）。

まず、いきなり美樹ちゃんが登場する。美樹ちゃんはこの作品の主人公、女蛮子（すけ・ばんじ）に惚れちゃってるのだ。中学校を退学になった蛮子に、お別れのキスをする。しかも、蛮子の家はあの牧村家の隣（！）。風呂場で美樹が悲鳴をあげれば、もちろん明くんも登場。蛮子にふんづけられた明はひとこと「あ、悪魔！　ゆるさんぞーっ！」。テレビアニメでは美樹のために裏切り者呼ばわりされ、コミックでは美樹のために戦う、といった不動明、かんじんの美樹ちゃんの気持ちは蛮子にあったらしい。

ほかにも、不遇（ふぐう）明がビビルマンに変身してゴーモン族と戦う『あばしり一家』、金持ちの娘ジュンを力ずくで犯すため明と了が活躍する『鉄の処女JUN』、ほかにもまだまだあるぞ！　『デビルマン』ファンなら探してみるべし！



2月25日号



もう見てはいられない！ 敢然とたった 明!!デビルマン!!

KC4巻P48～P67

蛇のデーモンの部分が加筆されている。マガジン掲載時には、牧村氏はデーモンを撃たなかったのだ。

3月4日号



ミサイル落下によって 明の戦う決意も水のあわか!?

KC4巻P69～P89

KCP69、飛来するミサイルをバックに、上図のデビルマンが描かれている。

3月11日号



デーモン族の神 サタンの出現!! 人類救済の戦いのゆくえは……!?

KC4巻P90～P111

カラー扉。KCP108、サタンの名に戦慄する不動明のページが加筆。

3月18日号



ソビエト全土を消滅させた 光る球の正体は!?

KC4巻P112～P133

牧村家に帰ってきた明の衣装がかわっている。フォーマルなジャケットは、了からの借り物か？

3月25日号



政府のおこなおうとする 悪魔狩り作戦とは何!?

KC4巻P134～P150

扉上部に、「人類と悪魔との大死闘!! いよいよクライマックスへ突入!!」とある。

4月1日号



悪魔特捜隊 ついに発足!! だが!?

KC4巻P151～P168

コミック化にあたり、KCP169、来日する雷沼教授と国会議事堂のページが加筆。

4月8日号



悪魔の正体暴露!? 雷沼教授の電撃発表せまる!!

KC4巻P170～P187

カラー扉。KCP177・178、世界戦争のシーンがコミック化にあたり加筆。

4月15日号

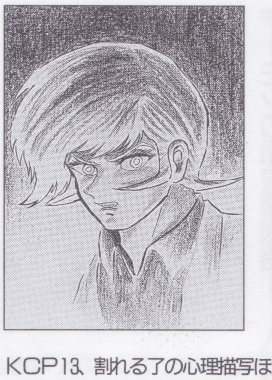


静寂をやぶって とどろいた声の主は!?

KC４巻P188～P205

この号にKC３巻の広告がある。読者の投書「永井先生のすばらしい変身ぶりに驚きました」

4月22日号

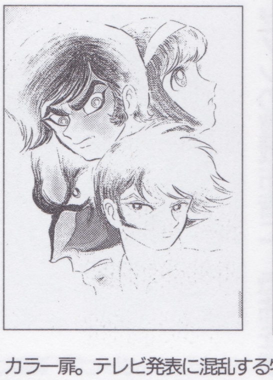


了が発見する おそるべき事実!!

KC5巻P4～P22

KCP13、割れる了の心理描写ほか、計3ページがコミック化にあたり加筆。

4月29日号



戦慄の事実!! 飛鳥了は死んでいた!! 混乱の"了"に悪魔殺到!!

KC5巻P24～P41

カラー扉。テレビ発表に混乱する牧村家（KCP42）ほか、計2ページの加筆がある。

12月3日号

明・番長グループ対運動部員たちの大乱闘が開始!!

KC3巻P80～P98



番長グループのうち、木刀政は美樹を守って死に、ドス六はデビルマン軍団の使いっ走りをすることになる。

12月10日号

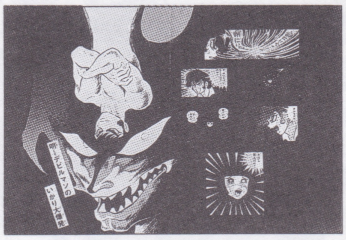
恐怖のライバル！　魔将軍ザン　出現!!

KC3巻P99～P115



魔将軍ザンの名が扉に大書きされているが、ほんとの登場はずっとあと。しかも3コマだけだ。

12月17・24日号

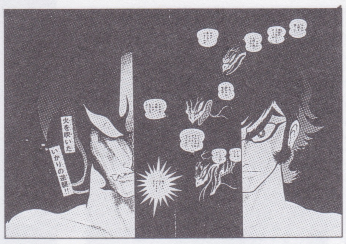


明＝デビルマンのいかり大爆発

KC3巻P115～P131

この号には、読者に写真の応募を求める告知があった。この告知に明が登場、半裸の美樹を撮っている。

'73年1月1日号

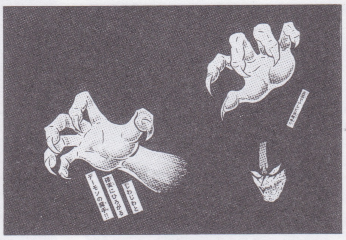


火を吹いた　いかりの逆襲!!

KC3巻P132～P147

見開き扉でジンメンが粘着質の前口上をふたたび披露。

1月7日号



じわじわと　確実にひろがる　デーモンの魔手!!

KC3巻P148～P163

この回で主人公をつとめるのは、傑作短編『ススムちゃん大ショック』のススムちゃん。明の登場はなし。

1月14・21日号



デーモンの攻撃 急!! さらに早まる 人類滅亡の危機!!

KC3巻P164～P180

KCP181、デーモンと合体して倒れる人間たちの描写が、コミックス収録時に加筆されている。

1月28日号

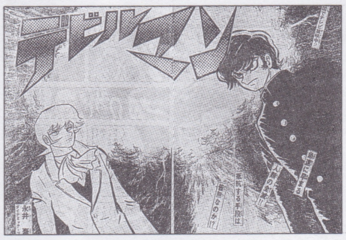


見よ!!　デーモンの狂気の大攻勢!!

KC3巻P182～P197

ソ連のツリングラードが壊滅。人類滅亡の序曲は、この回から奏でられはじめた。

2月4日号



急速に早まる 人類の全滅!!　抵抗する手段は 皆無なのか!?

KC3巻P198～P213

向かい合う了と明。のちに来るカタストロフィーを予感させる構図だ。

カルトコラム②

『デビルマン』と『オモライくん』②

『デビルマン』連載中に、『オモライくん』の読み切りが掲載されている。これが結局、『オモライくん』のラストエピソードになったのだが、これを読むと、いかに当時の豪ちゃんがデビルマンに夢中だったのかがわかる。

『オモライくん』のヒロインおこもちゃんは、暑さのあまりおかしくなって天空を舞うが、翼がはえたその姿はそのまんまシレーヌかサタン。そのうえ、正気にかえって言う言葉は「しまった！　明、もう地球はデーモンの手におちたか　クソー」だ。

さらに、オモライくん以下ホームレス軍団が、ゴミをめざして襲撃すれば、清掃員のおじさんは「おばけー！」「おばけはもう古い、デーモーン！」と叫んでいる。

2月11日号

ゼノンの宣戦布告に　恐怖をきたす人類!!

KC3巻P214～P232

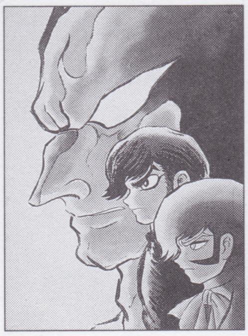


「安全な場所だって？　悪魔に対して安全な場所があるものか」明のセリフが人間の愚挙を予感させる。

2月18日号

デーモンの総攻撃開始！　人類滅亡の危機せまる!!

KC4巻P6～P46



カラー扉。シリーズ中、4巻はもっとも加筆が多い。この回も10ページ以上の加筆がほどこされている。



10月8日号



一大ピンチ!! 明＝デビルマンの虚をついた 妖鳥シレーヌの猛攻!!

KC2巻P146〜P174

この回にてはじめてデビルマンに翼がはえ、空を飛ぶさまが描かれる。

10月15日号



見よ!! 妖鳥シレーヌとの激闘につぐ激闘!!

KC2巻P176〜P192

この回、登場人物はシレーヌとデビルマンだけ。セリフも両者ほとんどなく、純粋な格闘の章。

10月22日号



シレーヌの猛攻に反撃なるか!? デビルマン!!

KC2巻P193〜P210

デビルマンとシレーヌの戦いはつづく。シレーヌはカイムと合体する。

10月29日号



シレーヌとカイムの 合体モンスターが デビルマンを急襲!!

KC2巻P212〜P231

顔を損傷したシレーヌのアップ（KCP213）ほか、コミック収録にあたり2ページの加筆がある。

11月5日号



新たな事件が急展開!

KC3巻P6〜P22

了が謎めいた行動をとりはじめるのは、シレーヌとの戦いのときから。彼はなぜか明の危険を察知できたのだ。

11月12日号



恐怖! 狂気!! デーモンの殺戮開始!!

KC3巻P23〜P41

前回、明が悪魔ハンターを宣言したが、今回は了が不可解にも悪魔ハンターを宣言する。

11月19日号



明＝デビルマンに新たな攻撃!!

KC3巻P42〜P59

KCP48下、「プロレス野球部員」は、当時マガジン連載の『群竜伝』（本宮ひろ志）からの引用である。

11月26日号

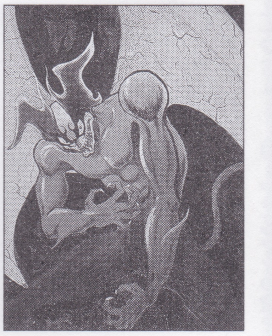


明・美樹にせまるデーモンの魔手!!

KC3巻P60〜P79

KCP77、クモ・デーモンにとりつかれた男のシルエットは、コミック収録時の加筆。

7月30日号

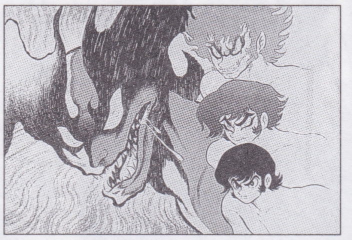


デーモンを体内によびこむ 狂気の儀式が開始された! 運命の時が明にせまる!

KC1巻P147～P164

はじめて扉にデビルマンが登場。麻薬たばこを喫って踊りくるう了(KCP146)はKC収録時の加筆。

8月6日号



デーモンとの 恐怖の合体が ついに開始された!!

KC1巻P166～P182

この号には「夏休み爆笑超大作」として、『オモライくん』の読み切り51ページが併載されている。

8月13日号



ついに明にも 変身のときがきた!!

KC1巻P185～P205

明の変身前に2ページ、変身後に見開き2ページ(憤怒の形相のデビルマン、KCP200)の加筆がある。

8月20日号

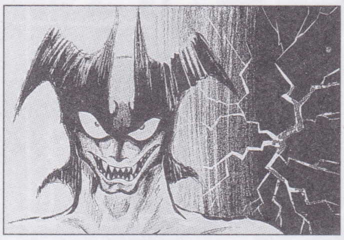


デーモンとの合体を ついに完了した不動明!! その前途には何がまつ!?

KC2巻P6～P22

早くも扉にシレーヌとゲルマーが登場しているが、この回には現れない。予告といったところか。

8月27日号



デビルマンとなった明に 異様な悪夢がおそう!!

KC2巻P24～P39

明と美樹ちゃんとの間でセクシャルな会話がとりかわされるのがこの号。

9月3日号



変幻自在のデーモン一族とデビルマンとの対アクションで話題独占の恐怖漫画!

KC2巻P40～P57

この回はKCP45の「見たな 子ども!」というデーモンの顔が扉。その前の部分はイントロ。

9月10日号



凄絶! 悪魔の使者が 明をおそう!

KC2巻P59～P77

飛来するシレーヌが扉。下半身ヘア(KCP58、永井氏によればこれは「陰毛」)は加筆ページ。

9月17日号



美樹の背後にせまる デーモンの使者!!

KC2巻P78～P94

お風呂の美樹ちゃんに襲いかかるゲルマーの回。いやでも獣姦を彷彿させる。

9月24日号



凄絶! デーモン一族との死闘開始!

KC2巻P95～P112

9月10日号以来、美樹ちゃんは3週間連続でおふろに入っている。

10月1日号



美樹をすくうのだ!! はじめて火をふく デビルマンの猛威力!!

KC2巻P113～P145

一挙倍増35ページ、とある。この回でアグウェルとゲルマーはやっつけられてしまう。

カルトコラム①

『デビルマン』と『オモライくん』①

『デビルマン』連載開始以前、「少年マガジン」誌上に連載されていたのが『オモライくん』。豪ちゃんの最高傑作、という呼び声も高いシュールなギャグマンガだ。

このオモライくんが、最終回最終コマで『デビルマン』を紹介している。

「わい今週号でしばらくみなさんにごぶさたしまっさー! でも来週号からこのデビルマンが登場しまっさかい、わいどうよう、よろしゅうたのんますわ!」

笑顔のオモライくんの横にはデビルマンが描かれている。

なお、この時点で『オモライくん』は「第一部おわり」とされていて、続編の執筆予定があったことがわかる。

デビルマン



少年マガジン収録完全データ

「マガジン」掲載時の扉・アオリ文句、コミックス収録時の対応ページを網羅。
『デビルマン』のデータベースだ！

データの見方

掲載年月日
扉絵
キャッチコピー&KC対応ページ
備考

'72年6月11日号

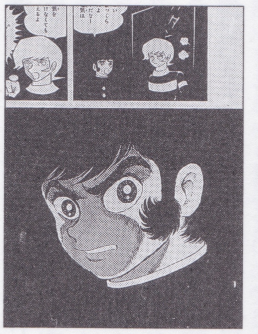


地球が悪魔にのっとられる！ クールな怪奇と熱い幻想で描く 新感覚の恐怖漫画！

KC1巻P7〜P36

記念すべき連載第1回。「新連載！ どうどう31ページ！」とある。この号では表紙も飾った。

6月18日号



不動明の運命をかえる 恐怖の遺産とは!?

KC1巻P37〜P55

この回の扉絵がそのままKCP41下のコマに使われている。マガジン掲載時、ここには広告が入っていたのだ。

6月25日号



不動明の見た地獄が 現実のものとなる!?

KC1巻P56〜P72

最終ページには、「豪ちゃんのサイン入り色紙を二十名に！」という告知が。アシスタントも同時募集している。

7月2日号

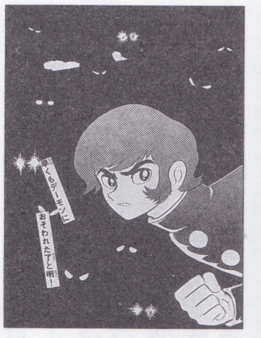


話題騒然！ 衝撃の恐怖漫画 滅亡の悪魔族が いま ここによみがえる!!

KC1巻P73〜P91

連載当時、『デビルマン』は完全に「恐怖漫画」という形で紹介されていた。

7月9日号

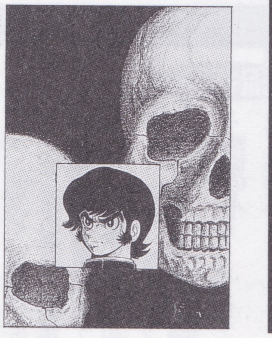


早くもデーモンに おそわれた了と明！

KC1巻P92〜P109

連載第2回より、扉には「7月よりテレビ放映決定！」と書かれている。アニメ放映はもうすぐだった。

7月16日号



くらやみの地下室で 何が起こる?

KC1巻P110〜P127

了から明へ「デーモンと合体する方法」が伝えられる回。

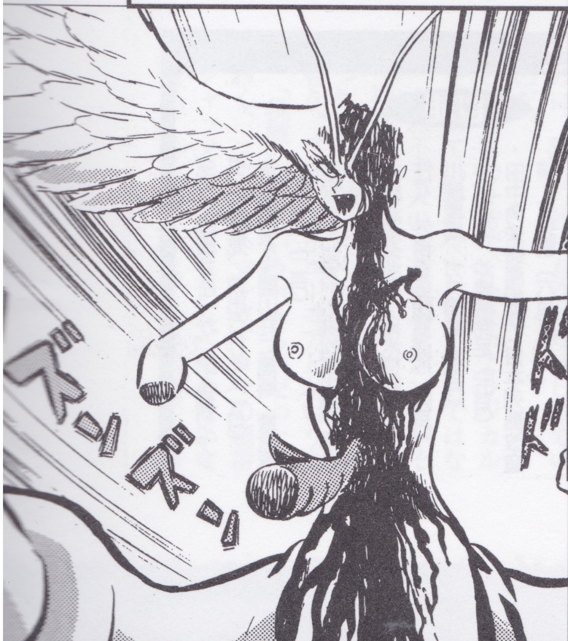
7月23日号



地獄へのとびらは ついにひらかれた!!

KC1巻P128〜P145

この号の発売と前後して、アニメ版が放映されはじめた。「全国でテレビ放映開始！」とある。



カボン』の挑戦は続いたが、当時の「マガジン」には、これを喝采し、伴走する読者がいたのだ。



「わしは今週かぎりで死んでしまうのだ」ページを開くと、「でもそれはうそなのだ」雑誌の表紙だぜ、これ。

●善悪の彼岸『オモライくん』

われらが永井豪ちゃんの状況に目をうつそう。『オモライくん』の連載が'71年末よりはじまっている。

この年、美濃部都知事が産業廃棄物の不法投棄にたいして、「東京ゴミ戦争」宣言を発した。都会のゴミが、はじめて社会問題となったのである。無為自然の乞食少年を主人公に据えた『オモライくん』は、もちろんこれに呼応して描かれている。

ゴミをかたづける、町をきれいにする。それ自体はむろん、いいことに違いない。しかし、ミノベさんが東京のゴミをかたづければ、オモライくんやヒロインのおこもちゃんは、食べるもの(ゴミめし！)がなくなってしまうのだ。これが清掃局のおじさんとオモライくんたちとの、あくなき闘争を生みだしていくわけだが、すでにこの段階で、「誰が見ても善」が、そのまま悪にも変わり得る、という『デビルマン』の哲学が準備されていたことがわかる。

ゴミを町の外にだせば、外のものが手痛いしっぺ返しをしてくる。じっさいは、外なんかどこにもなく、町はどこまでもつづいているのだ。

オモライくんのあまりの汚さに、学校の先生はバタバタと死んでいくが、オモライくん＝デーモン、先生＝人間と考えれば、ますます二作の近似は明白になる。『デビルマン』の種子は、すでに地に落ちていた、というべきだろう。

●終末の予感

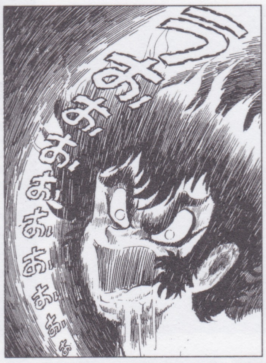
繁栄の時代、昭和元禄である。'70年に開催された大阪万国博覧会は、科学の勝利と、人類の未来を高らかに謳いあげ、田中角栄は「日本列島改造論」をぶちあげた。しかし、この繁栄は同時に、そんなはずはない、これこそが「終わり」のはじまりなのだ、という不安感をも生んでいたのだろう。小松左京の『日本沈没』が空前のベストセラーを記録したのも、このころのことだ。

「マガジン」誌上にも、終末をテーマにした作品が、数多く掲載された。『デビルマン』ばかりではない。石森章太郎の『変身忍者嵐』が、「ヨハネ黙示録」をひきながら終末を語り、『レインボーマン』(川内康範原作、小島利明画)も似た世界観を語った(これら三作は、すべてテレビ放映されたが、一様に原作のテーマ性が失われていた点も共通している)。

争乱の季節を過ぎて、目前の敵を見失ったあとに訪れた平和と繁栄は、外見のスマートさとは裏腹に、色濃く終末不安を内包していた。悪いのは誰で、戦うべき相手は誰なのか。自分たちは本当に正しいのか。暴力衝動を内向させることしかできなくなった時代、『デビルマン』は世に現れたのだ。

●『デビルマン』のアクチュアリティ

『デビルマン』の連載当時に起こったできごと、とくに芸能関係などを眺めれば、過ぎた時間の長さ・遠さに、驚かずにはいられない。作品をリアルタイムで体験しなかった世代にとって、『デビルマン』が描かれてから四半世紀以上の時間が経過している、という事実は、ちょっとした驚きである。



悪魔と合体する不動明。これは四半世紀まえの少年の顔ではない。まぎれもない現在の、私やあなたの顔だ。

『デビルマン』の世界は、リアルな「現在」と地続きだ。われわれはそう感じる。

しかし、この作品が長い時間を経ても古びないことは、ぎゃくに、ある事実を証明している、ともいえるのだ。

『デビルマン』の訴えるテーマは、現代においても、相変わらず問題であること。つまり、人類は滅亡こそしなかったけれども、四半世紀を経ても、ちっとも利口になっちゃいない、という、あたりまえの、しかし重大な事実だ。

1972年のできごと

世相

・元日本兵横井庄一がグアム島ジャングルで発見、救出される(一月)
・連合赤軍が浅間山荘に籠城、警官隊と銃撃戦(二月)
・奈良県明日香村の高松塚古墳で彩色壁画が発見される(三月)
・沖縄返還交渉の「日米機密漏洩」事件で、外務省事務官逮捕(四月)
・川端康成、ガス自殺(四月)
・沖縄返還。沖縄県発足(五月)
・田中角栄通産相が「日本列島改造論」を発表(六月)
・ミュンヘン・オリンピック(八月)
・日中両国首脳が共同声明に調印、国交が回復される(九月)
・上野動物園でパンダのランラン、カンカンが初公開(十一月)

芸能

●テレビ
「木枯し紋次郎」「必殺仕掛人」「太陽にほえろ！」「科学忍者隊ガッチャマン」「セサミ・ストリート」

●映画
「忍ぶ川」「故郷」「約束」「わらの犬」「時計じかけのオレンジ」「キャバレー」「ゴッドファーザー」「ダーティハリー」「暗殺の森」

●歌謡
「喝采」ちあきなおみ　「ひとりじゃないの」天地真理　「ひなげしの花」アグネス・チャン　「結婚しようよ」吉田拓郎　「学生街の喫茶店」ガロ　「せんせい」森昌子　「赤色エレジー」あがた森魚　「さそり座の女」美川憲一

流行語

・あっしにはかかわりねえことでござんす
・恍惚の人

1972年の黙示録

『デビルマン』とその時代



『デビルマン』が描かれたとき、時代はなにをかかえていたのか？　時代状況から『デビルマン』を読む

●「心にマガジン」

'60年代の末から'70年代初頭にかけて、某大学には「手にジャーナル、心にマガジン」という合い言葉があった。ジャーナルとは「朝日ジャーナル」、マガジンとはいうまでもなく「少年マガジン」のことである。

このころの「少年マガジン」は「子供のものを大人が読む」のではなく、はっきりと団塊世代の大学生を対象にして編集されていたのだ。横尾忠則による大胆なアートワークをあしらったカヴァー・デザインと、社会派巻頭特集は、すでにこの雑誌が「子供向け」ではないことを高らかに宣言している。

「全学連も億万長者も！　年齢をこえて読まれる少年マガジン」というコピーが、堂々と新年号を飾ったのもこのころのこと。「レイアウト」「企画&構成」と、のちに出版業界で常用されるようになる言葉も、この時期の「マガジン」が定着させたものだった。

●『あしたのジョー』と学生運動

このころ、「少年マガジン」はひとつの頂点をきわめ、若者文化の尖兵として、黄金期を迎えていた。

だが、『デビルマン』が連載されはじめるころ（'72～'73年）になると、それも次第に翳（かげ）りを帯びはじめる。そのもっとも象徴的な事件は、『あしたのジョー』（高森朝雄原作、ちばてつや作画）の連載終了であった。

'68年に連載を開始したこの作品は、みごとに団塊の世代の学生と歩調を合わせながら、成長し発展した。学生たちが闘争と呼び、大人たちが騒動と呼んだ学生運動が、全国で噴出しはじめたころ、この作品は「マガジン」誌上に掲載されはじめたのである。プロレタリア独裁、という言葉が、甘美な理想として語られた時期のことだ。

翌'69年初頭には、8500人の機動隊が投入された東大安田講堂籠城戦が展開され、学生運動はピークを迎えている。いっぽう、ジョーもまた、この年には急成長して、少年院をでてプロ・テストを受けた。

力石徹が死ぬと、寺山修司の劇団が中心になって、力石の告別式が行われた。フィクションの人物に告別式？　まったく妙な話にはちがいないが、『あしたのジョー』とはそういう作品だったのだ。

この告別式において、寺山修司は「力石は死んだのではなく、見失われたのだ」という名言を吐いた。

終生のライバルを失ったジョーは、戦う理由をなくして自暴自棄におちいる。同じように、団塊世代の学生たちも、このころ、戦う相手を見失いつつあった。相次ぐ内ゲバ殺人、浅間山荘事件。ジョーが敵を見失うと同時に、学生たちも敵を見失ったのである。やってくる惰性の日々は、力石なきあとのジョーの自暴自棄と、確実に歩調をともにしていた。

'73年、ホセ・メンドーサが矢吹丈に勝ち、ジョーが真っ白に燃え尽きて逝く。文武にすぐれた円熟型ボクサーがジョーを倒す、ということは、それ自体、この時代の学生たちにとって、じゅうぶんに象徴的なできごとだった。

●闘争から繁栄へ

『デビルマン』が連載されはじめたのは、ジョーが力石を失い、自暴自棄におちいって低迷するころだ。要するに、学生たちが戦うべき敵を見失いはじめたころである。時代は闘争の季節から、繁栄の時代にうつりつつあった。この繁栄は、「昭和元禄」と呼ばれた。

メディアの最先端を突っ走っていた「少年マガジン」も、このころになると表紙にテレビタレントを起用するようになる。巻頭特集も、アイドルのグラビアにかわりつつあった。メディア・ミックスのはしり、といえば聞こえはいいが、要するに、メディアとしての独立性が失われはじめた、ということである。

なにかぼんやりした安定の時代に、うつりつつあったのだろう。少し前までは、山上たつひこ『光る風』など、まっこうから体制批判をするマンガがあったが、このころになると、そうしたものは影をひそめる。松本零士『男おいどん』に見られる、日常生活のペーソス――そんなものに、読者の興味もうつりはじめていたのだ。

しかしその一方で、いよいよラジカルさを強めていったマンガも、ないではない。赤塚不二夫の『天才バカボン』がそれ。前人未到・空前絶後の試みを、『バカボン』は毎週毎週くりだしている。それはもう、ギャグとかユーモアとかいうより、「挑戦」とでもいうべきものだった。いわく、コマのないマンガ、コマの順番がシャッフルされたマンガ、絵のないマンガ……ほとんど一人ごっつ状態で『バ

作品	出来事
『デビルマン』	インドのヒンズー僧、デビルマン軍団に参加
	デビルマン、ミーコを実験施設から救出
	了、みずからをサタンと認め、その後テレビ出演、「悪魔は誰にでもとりつく」と発言
	明と了、親友としての最後の接触
	牧村夫妻、悪魔特捜隊本部でリンチにあう
	デビルマン軍団、悪魔特捜隊本部を襲撃
	牧村家を近隣住民が襲撃。牧村美樹死す
	人類の滅亡。その20年後、デビルマン軍団が中国に集結
	最終戦争はじまる
	デビルマン戦死。最終戦争の終焉。「神の軍団」が姿を現す
	神、地球を創世期の星に戻す
『バイオレンスジャック』	サタン、無に帰した地球を悲しみ、関東とニューヨーク周辺を再生させる
	関東地獄地震おこる（197X年）
	明、バイオレンスジャックとして復活
	サタンの悪の心スラムキング、関東を恐怖支配。善の心は人犬の姿で責めを受ける
	凄ノ王、スラムキングと勢力を二分
	凄ノ王、ジャックにより倒される。スラムキングの勢力強化
	逞馬竜、関東の勢力として頭角を現す
	スラムキングの穀倉クラーケンの農場の奴隷反乱。農場は逞馬領となる
	天馬三郎、ゲリラ活動開始
	ニューヨークより７人のハニー来日
	スラムキングと息子ズバ蛮の関係が悪化
	逞馬・天馬・ハニー連合軍により、スラムキングの魔王城陥落
	ジャックとスラムキングの最後の戦い。スラムキング死す
	スラムキング復活、ズバ蛮を殺害
	スラムキング・人犬・ズバ蛮の合体、サタンの復活。サタンは関東を無に帰そうとする
	３人のジャックの合体。デビルマン復活。サタンを押しとどめる
	逞馬と天馬、協力して関東を復興
『デビルマンレディー』	不動ジュン、H・Aのアスカ蘭の導きにより、デビルマンレディーとなる
	人間のデビルビースト化と並行して、デビルマンも増加しはじめる
	アスカ蘭、明の姿を夢に見て失踪
	ジュン、グルメク大使館に潜入
	グルメク大使館においてヴァラヴァ神復活。次元の扉が開き、囚われたジュンは地獄へ。ジュンは地獄で明と出会う
	明とジュン、肉体関係をもつ
	ジンメン復活。デビルマンと格闘
	シレーヌとカイム復活。デビルマンと格闘
	明とジュン、コキュートスへ。氷づけとなった魔王ゼノンを見る
	ジュン、現世に戻る

の心もまた、スラムキングに敵対する勢力――逞馬や天馬、海堂といった少年たちや、ニューヨークから来日した天使の心をもつ聖女・七人のハニーを育て上げていく。すなわち、関東とは広大なサタンの内面世界であり、善悪の葛藤の場であった。

謎の巨人バイオレンスジャックの正体は、サタンが愛するあまり再生させたデビルマン＝不動明である。ジャックがスラムキングと戦うのは、サタンの悪の心をくいとめ、再生した関東がふたたび滅亡するのを阻止するためだったのだ。

最終的に、デビルマンとサタンは、関東の存亡をかけ、再度争うことになる。この戦いの結末は描かれなかったが、関東復興後の逞馬竜が描かれたことによって、デビルマンがサタンの阻止に成功した、ということがうかがえる。

●『デビルマンレディー』

デビルマンとなる人物が不動明でなく、女だったなら、滅亡へ向かう人類の光明となるのではないか――そんな作者の願いから生まれた本作は、デビルマンレディー＝不動ジュンがデビルビースト・ヴァラヴァによって「地獄」（異次元）に落ちることで、色濃く『デビルマン』と関係してくることになった。

地獄とは、想像がすべて実体化する世界であり、生きたいと願う者は何度でもよみがえることのできる世界である。ジュンはここで、地獄に落ちたデビルマン、不動明と出会う。

地獄からの脱出のため、地獄の最下層コキュートスまで降りていく二人は、途中さまざまな強敵と出会う。その一人が復活したジンメンであり、もう一人がシレーヌだった。

とくに、シレーヌが興味ぶかい。不動明がアモンの肉体を得てデビルマンになってすぐ、真っ先に牧村邸を襲撃したのがシレーヌだったが、ここにきてその理由が明らかになっているのだ。シレーヌはアモンを愛しており、デビルマンへのたび重なる挑戦は、アモンを求めるがゆえの挑戦だった。気高い女戦士シレーヌは、それに気づいたとき、みずから石となって命を絶つ。石の彫像となったシレーヌの前に、カイムは号泣した。

なお、右の表には挿入しなかったが、『デビルマン・イン・ザ・ダーク』（'98年8月）という作品がある。ここでは、『レディー』において、ジュンと戦ったもと不良女子学生のデビルビーストが地獄に落ち、不動明と出会うさまが描かれた。不動明登場前の『レディー』と、登場後の『レディー』の結節点となるべき作品である。ここでも、デビルマンとシレーヌは、激しい死闘をくりひろげている。

今後、『デビルマンレディー』の物語がどう展開するのか、予想はつかない。しかし、この物語が『デビルマン』の長大な物語の一部として、描きつがれていくことは、ほぼ間違いないことである。明と了の物語は、さらに多くの人物を巻き込みながら、増殖をつづけていくのだ。

The History of DEVILMAN

『デビルマン』の世界は現在も大きく広がりつつある。増殖する了と明の物語を、時間軸にそって見ていこう。

●増殖する物語

不動明と飛鳥了の物語は、『デビルマン』で終わったわけではない。作品としての『デビルマン』の連載が終了し、単行本が発売されても、物語は様々なかたちで描きつがれ、現在も深みと広がりを増しつつある。そう、不動明と飛鳥了の物語は、今なお増殖し、発展をつづけているのだ。

右に示した表は、明と了ふたりの関係を中心に、時間軸にしたがって『デビルマン』世界を記述したものである。以下、いくつかの作品について、簡単な説明をつけよう。

●『ネオ・デビルマン』

'98年5月に発表されたこの作品によって、不動明と飛鳥了の出会いが明らかになった。彼らが親友であったのは、あくまで了の特殊能力により、明の記憶がコントロールされ、「親友」と認識されたためである。また、最終戦争において、明にとどめをさしたのは、サタン自身であったことも描かれた。

●『バイオレンスジャック』

『デビルマン』の連載終了後、「世界を破滅させてしまった罪の意識から」(本書P3)人間の再生の物語としてスタートした『バイオレンスジャック』は、途中の休載もふくめ17年の月日を経て、ふたたび『デビルマン』に帰着することになる。

連載開始まもなく、飛鳥了は牧村美樹とともに両手足を切り取られ、舌を切断された「人犬」の姿で登場するが、これは人類を滅亡させたサタンが、悔恨から自身を責めさいなむ姿だったのだ。

『デビルマン』のラストにおいて、最終戦争の終結後に現れた神の軍団は、地球を創世期の星に戻す。これを見たサタンは神の一人として、東京を中心とした関東を再生させた。しかし、サタンの心に残っていた「破壊された関東」のイメージが、大地震をひきおこし、関東を暴力の支配する無法地帯に変えてしまったのだ。

関東を恐怖支配したスラムキングは、サタンの悪の部分の権化であり、その配下ドラゴン軍団、息子ズバ蛮もまた、悪の心が作りだしたものだった。一方、善

年表

『新デビルマン』	デビルマン、アモンの恋人サモトラケのニケに出会う。ニケは了により殺害(BC200年)
	デビルマン、デーモンによる魔界裁判にかけられたジャンヌ・ダルクを救出(1428年)
	飛鳥と了、マリー・アントワネットの精神世界に入りデーモン退治(1789年)
	デビルマン、スー・シャイアン連合軍にかわり、第7騎兵隊を壊滅させる(1876年)
	明と了、ウィーン・メルデマン街に時空移動、青年画家ヒットラーと出会う(1913年)
『ネオ・デビルマン』	明、飛鳥了と出会う。了のマインドコントロールにより、「幼なじみの親友」と錯覚
『デビルマン』	不動明、飛鳥邸にてデーモンの勇者アモンと合体、デビルマンとなる
	牧村邸をシレーヌ、アグウェル、ゲルマーが襲撃
	シレーヌ、カイムと合体して死す(このころより、デーモンによる異常殺人事件増加。明と了のタイムスリップもこの頃か)
	明の学校にクモ型デーモン襲撃
	明の「恋人」サッちゃん、牧村邸訪問
	ジンメン、新幹線を乗っ取り、サッちゃんを食う。デビルマンと戦う
	ミーコ、デビルマンとなる
	デーモンの人間への無差別合体がはじまる。被害件数は1500件
	ソ連領ツリングラードをデーモンが侵略、ソ連政府はこの街に向け水爆ミサイル発射
	明、デビルマン軍団結成を決意
	世界主要都市に悪魔王ゼノンがあらわれ、人類へ宣戦布告
	デーモンの大群が全世界を襲撃
	ソ連の重要人物がすべてデーモンになり、米国へ向け水爆ミサイル発射
	デビルマン、東京でサイコジェニーの心理攻撃を受ける
	ソ連を光の球が包む
	悪魔特別捜査隊発足
	雷沼教授、「悪魔の正体は人間」と発表。これを機に、世界は戦乱に包まれる

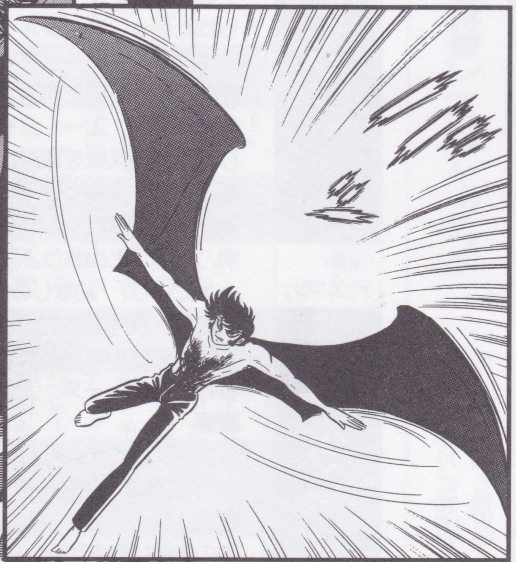
デビルマンの超能力



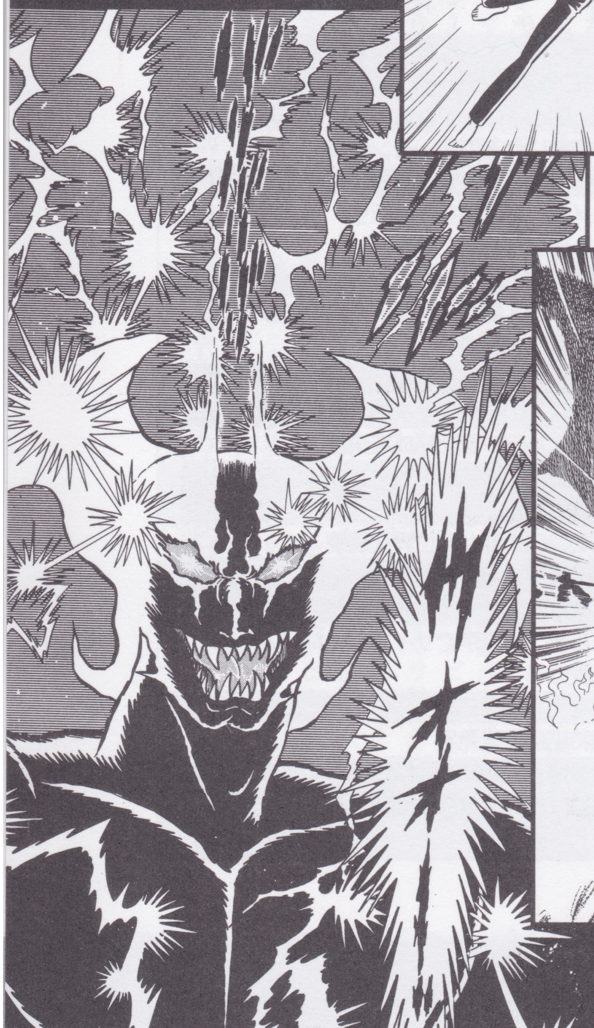
①



②



③



④



⑤



⑥

1 伸びる触角

地獄の死者・アグウェルはこの触角によって首をもぎとられ、「地獄で先に待ってるぜ」と捨てゼリフを残して死んだ。シレーヌと戦うときにはこれを直接導線がわりにして、相手に電流（？）を送り込んでいる。

2 ジンメンの甲羅をはがす

甲羅に人間の顔を生きたまま浮かび上がらせ、それを人質として利用する粘着質のカメデーモン、ジンメン。はぎとった甲羅はそのまま固まり、巨大なデスマスクとなった。戦いの後、不動明は涙を流す。

3 デビル・ウィング

テレビアニメでは毎週翼をひろげて空を飛んだデビルマンだが、原作においては必ずしも毎回、というわけではない。翼のデザインも大きくかわり、アニメ版の半円形にたいして、コウモリの翼と似たものになっている。

4 デビル・アロー

触角（？）部から光を発し、それを相手に向かってぶつける。アニメ版なら、かがみ込んで手をX字に組み、「でびーる・あろーっ!!」と叫ぶ技だ。『新デビルマン』のこのシーンでは、周囲のデーモンを一気に抹殺。

5 憤怒の炎

悪魔特捜隊本部を襲撃したデビルマン軍団。そこで不動明が見たのは、悪魔狩りの拷問による牧村夫妻の惨殺死体だった。デビルマンの怒りは極点に達し、人間への呪いの言葉とともにすべてを焼き尽くす。

6 デビルマン・アギラ

最終戦争におもむくデビルマンが、空飛ぶ台座としてもちいているのが、デビルマン・アギラだ。石川賢の『ネオ・デビルマン』（竹書房「月刊コミックガンマ」'96年6月号所載）にて命名された。



く、と思いました。やはり『デビルマン』で、世界を滅ぼしてしまった、という罪の意識みたいなものが、ずっと残っていたんだと思います。

飛鳥了を人犬という、無惨な姿で登場させたことにも、深い考えはありませんでした。しかし、終了間際になってもう一度考え直してみると、世界を滅ぼした後悔と悲しみから、いちばんひどい環境に身をおいたのではないか、という気がしてきて、もうこれは『デビルマン』でいくしかないな、と思いました。『凄ノ王』にしようかという考えもあったのですが、この作品を描きはじめたときの気持ちを考えれば、『デビルマン』がいちばん自分で納得がいく、と思ったのです。

『バイオレンスジャック』においても、飛鳥了は不動明と戦ってしまいますけれども、彼らはお互い強く惹かれあいながらも、戦ってしまう関係にあるんです。

あれは結局、ぼく自身の葛藤の反映なのだろう、と思っています。

人間は神にも悪魔にもなれる存在

『マジンガーZ』の最初に、兜甲児は「神にも悪魔にもなれる」という啓示を受けるんですが、これは、すべての人間に当てはまることなんじゃないか、とぼくは考えています。人間には、そういう葛藤が常にあり、どんな人間でも環境や条件によっては犯罪者になる可能性があると思うんです。

善とか悪とか、神とか悪魔とかいっても、すべては人間の心の持ちよう、心の一部です。自分がいい状態にいるときは、神様みたいに優しい行いができたりもするけれど、社会的に疎外され、追いつめられれば、心の中に眠っている悪魔的な部分が目覚めることもある。

『デビルマン』では、そうして人間の心の悪魔的な部分が目覚め、人類は滅亡への道をたどっていくのですが、ぼく自身は決して人間を否定的に見ているつもりはありません。人間にはまだまだ可能性がある、と思っています。デビルマンは人間に向かって、こんなことじゃダメだ、人間はこんなものじゃないんだ、と怒り狂っているキャラクターでもあるんです。

ぼくが『デビルマン』を描いた二十五年前に比べ、最近の現実はさらに厳しくなっていると思います。

日本国内でも、凶悪犯罪は増える一方ですし、不況による失業やリストラなど、暗いニュースが後を絶ちません。世界に目を向ければ、民族紛争は激化し、国際間の軍事・経済関係も一触即発の危機にあり、いつ世界大戦が始まるかわからない状態です。

ただ、そのいっぽうで、この世の中をなんとか良くしよう、住みやすい世の中にしよう、と努力する人も増えていると思います。

そうした人たちと、破滅に向かう人たちは、衝突せざるを得ないでしょうが、破滅に向かえば、『デビルマン』のような結末が待っている。世界は、いちど壊れれば、もうもとには戻りません。

はじめに、『デビルマン』は、何者かに描かされた作品だ、といいましたが、もしその何者かに意志があるならば、ぼくに「人類への警鐘」を描かせたんじゃないか、という気がしています。





増やすのは時間がなかったので、なにかをムリヤリ終わらせて切り替えるしかありませんでした。当時、「少年マガジン」には『オモライくん』を連載していたのですが、これを終了させ、『デビルマン』にとりかかることにしたのです。

あの当時、テレビとタイアップという考え方はまだありませんでしたから、編集部からは、人気好調な『オモライくん』をどうしてやめるんだ、とずいぶん止められました。しかし「どうしてもこれをやりたいからやらせてくれ」と頼んで、半ば強引に切り替えました。

作者さえ予想もしない展開

ギャグマンガを描いているときは気にならなかったのですが、当時の「少年マガジン」は、『あしたのジョー』がヒットした直後で、読者の年齢層がかなり高くなっていました。大学生も読める少年漫画誌になっていたのです。

それで、テレビアニメのままでなく、もっとリアルなテイストがないと売れないだろうと考えて、テレビとは違ったデビルマンをデザインしました。さらに、日常世界からSF的な話へと移行する案内役として、テレビアニメにはない飛鳥了というキャラクターを登場させたのです。案内役ですから、デビルマンが誕生すればお役御免で、死んでもらうつもりでいたのですが、どういうわけか生き残ってしまい、その後はどんどん比重が重くなる一方でした。

長いことギャグを描いていたせいもあるのですけれど、ぼくはいつも、あまり先の展開を決めずに描くんです。ギャグは、先を考えながら描くと、読者にも先を読まれちゃうし、自分で描いててつまらなくなってしまう。だから、何もレールのないところで描き、描いている瞬間を楽しもうとする。伏線も、あまり考えません。とにかく、頭のなかに映画のように浮かび上がるシーンを、絵にしていくのです。

『デビルマン』を描いているときは、とくにその傾向が強かった。飛鳥了はサタンなんじゃないか、と思いはじめたのも、ようやく3巻目がでた頃でした。美樹ちゃんが死ぬときもどうしようもなくて、「弱ったな、死んじゃうよ」と思ったのをおぼえています。あのラストにしても、まったく決めてはおらず、なにかすごい力で持っていかれるような感じで、あそこまで描いてしまいました。

再生の物語――『バイオレンスジャック』

『デビルマン』で世界を滅亡させてしまったあと、人間の再生の物語を描きたい、という気持ちになり、『バイオレンスジャック』を描きはじめました。ハードな内容のせいで、掲載誌が週刊少年誌から月刊少年誌へ、さらに青年誌にかわったため、完結まで十七年もかかってしまいましたが、これが最終的に『デビルマン』と関わってくることになるとは、作者であるぼくでさえ最後の最後まで予想していませんでした。

終了間際に、「ジャックの正体は何か」と一生懸命考えているうち、デビルマンにすれば自分でも納得がい





そんなおり、講談社から新雑誌（「ぼくらマガジン」）創刊に際して、連載を頼まれたのです。ぼくは「なんでも好きなものを描いていい」という条件で、この話を受けることにしました。

ギャグの細々（こまごま）とした絵に飽きていたぼくは、とにかく大きな絵を描きたかったのです。そこで、ゴジラのような巨大な怪物が大暴れする話を描くことにしました。そのころはメチャクチャに忙しかったので、怪物だったら大ゴマ取れるんじゃないか、って下心も、若干、あったように思います。

しかし、怪物を描くにしても、ゴジラをそのままやったのでは、面白くない。同じ怪物でも、なにか別の要素をつけたい――そう考えたときに、思い出したのが、十四世紀イタリアの詩人ダンテの書いた『神曲』でした。

今考えれば、なぜそんなものが家にあったのか、わからないのですが、ぼくは小さい頃に、『神曲』を読んでいたんです。ダンテが恋人ベアトリーチェに導かれて巡る「地獄界」のありさまは、幼少期のぼくに痛烈な印象を残しました。ギュスターヴ・ドレによる氷に閉じ込められた悪魔ルキフェルの挿絵など、今でも当時の記憶と一緒に、鮮烈なインパクトを伴ってよみがえってきます。悪魔の名前「ダンテ」は、そのままこの詩人の名前からとりました。

悪魔をもってくれば、当然、対立する神をもってこなくてはなりません。『魔王ダンテ』を描くうち、ぼくは次第に、「悪魔とはなにか、神とはなにか」という形而上学的な世界に引きずりこまれていきました。

結局、『魔王ダンテ』は雑誌の休刊と同時に最終回を迎え、物語のプロローグだけ描いたところで、未完のまま終わることになりましたが、神と悪魔、そしてさらに人間をまじえた三角関係は、そのまま次作『デビルマン』に持ち込まれていくことになりました。

『魔王ダンテ』をアニメに ――デビルマンの誕生

『魔王ダンテ』は連載の途中で終わってしまいましたが、これを読んでくださっていた東映動画（現東映アニメーション）のプロデューサーから、主人公が悪魔という設定は面白いから、そのまま生かしてテレビ向けにヒーロー的なキャラクターを作ってくれないか、と相談を受けました。もともとアニメは大好きですから、さっそく企画書とキャラクターのスケッチを提出したところ、「主人公がいない、敵キャラばっかりだ」といわれてしまい、ひどく困ったのをおぼえています。そもそも「主人公が悪魔」という設定ですから、人間らしくなるはずもないんですね。

それから、アメリカンヒーローのようなものを作れないかといわれて、試行錯誤の末、悪魔のデビルに人間のマンをつけた、デビルマンという名のキャラクターを作りました。アニメは絵を動かしますから、動きをつけやすくするため、テレビ版では主人公にパンツをはかされたりして、ぼくのイメージとはだいぶかけ離れたものになってしまったのですけれど……。

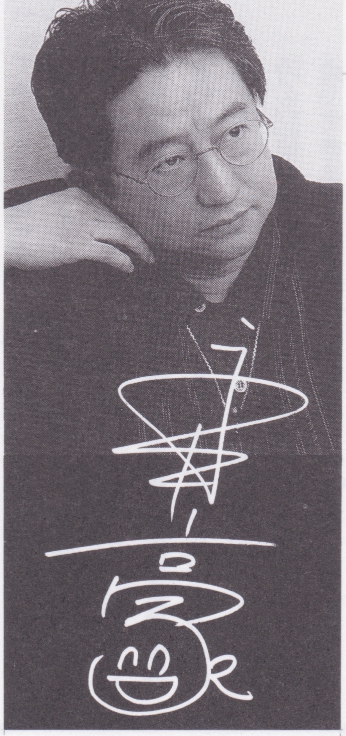
ひととおりテレビシリーズの設定が決まると、今度は、原作マンガが連載されていたほうがいいだろうということになり、頼まれました。ただ、新たに連載を





デビルマンの世紀末

『デビルマン』はぼくの魂の
もっとも深いところからでてきた作品です。



何者かに描かされた作品『デビルマン』

よく思うのですが、『デビルマン』という作品はぼくが描いたというより、なにか目に見えない力によって、描かされた作品だ、という気がします。描いているときは夢中でわからなかったのですが、描き終わって読み返してみた時、このセリフは本当に自分で考えたのだろうか、と思うことが頻繁（ひんぱん）にありました。理屈で考えていたら、あんな世界は描けなかっただろうし、あんなに辛い思いをすることもなかったと思います。

ぼくは当時、『デビルマン』以外に、週刊誌に連載を四本持っていました。しかし、『デビルマン』はなんとしても成功させたかったので、まず連載を一本やめて、時間的余裕を作ってみました。

ところが、どういうわけか『デビルマン』は、疲れて疲れてたまらないんです。そこで一本、また一本とほかの連載をやめていき、とうとう『デビルマン』だけになってしまいました。計算の上では、週刊誌五本ぶんのエネルギーを使えるから楽なはずなのに、精神的にも肉体的にも、苦しくてたまらない。最終回を描くころには、1ページ描くとソファーにぶっ倒れ、なんとか起き上がっては描き、また倒れる、ということを繰り返していました。経済的なことを考えたら、連載をやめたほうが、ずっと楽だったと思います。

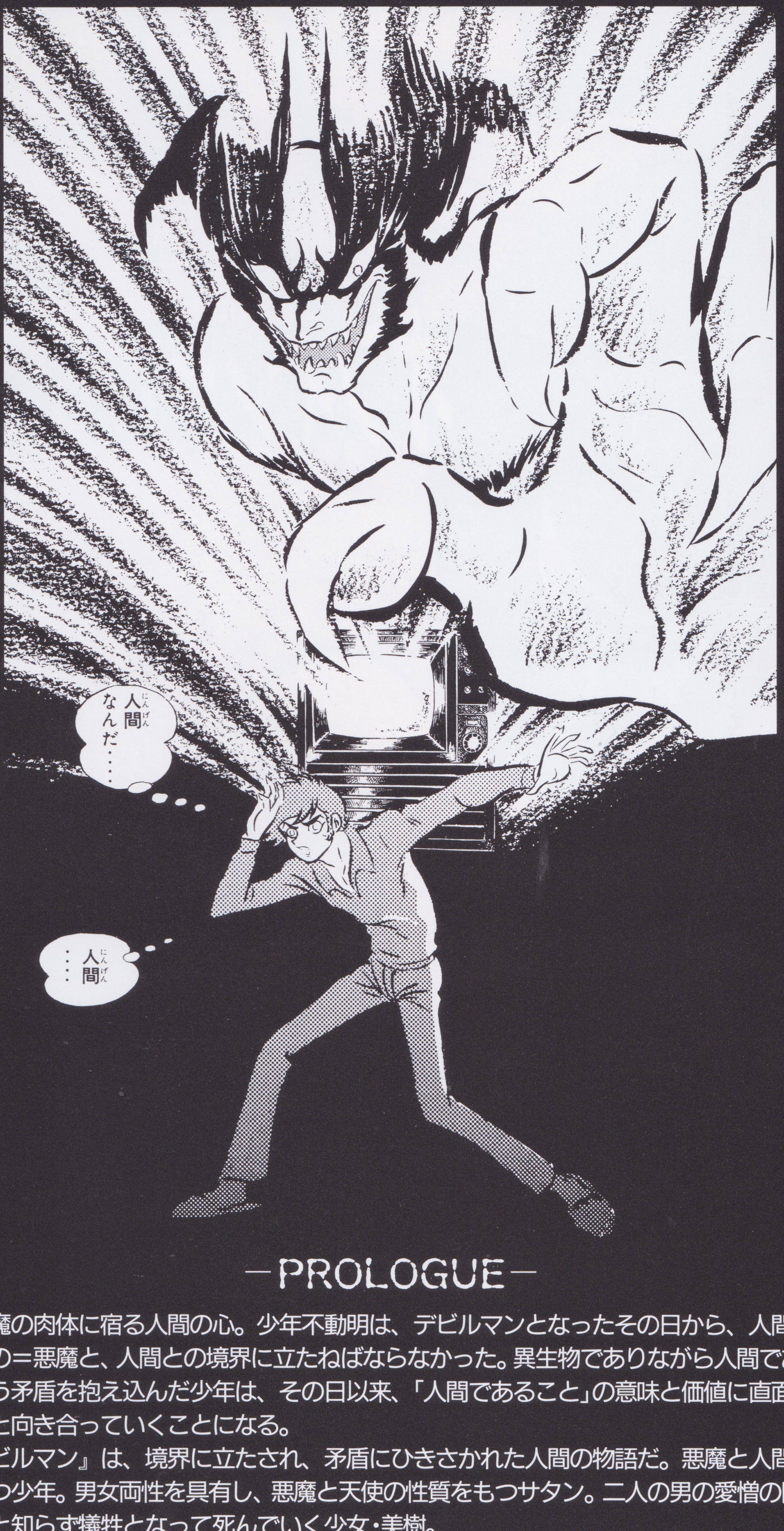
しかしその一方でこの作品は、ぼくの三十年にわたるマンガ家歴の中でも、最高の精神的充実感をもたらしてくれました。いま見直してみると、デッサンがくるっていたり、演出テクニックが未熟だったりしている部分もありますが、そうした数々の欠陥をも、ものともしない力強さが、この作品にはあると思います。

神と悪魔――『魔王ダンテ』から『デビルマン』へ

『デビルマン』には、前身となった作品『魔王ダンテ』があります。

『魔王ダンテ』は、ぼくのはじめてのストーリーものの連載でした。ぼくはそれまで、『ハレンチ学園』『あばしり一家』と、ギャグマンガのヒットが続いていたため、すっかり「エッチなギャグが得意な作家」というレッテルを貼られてしまっていて、ストーリーマンガの依頼はまったくなかったのです。





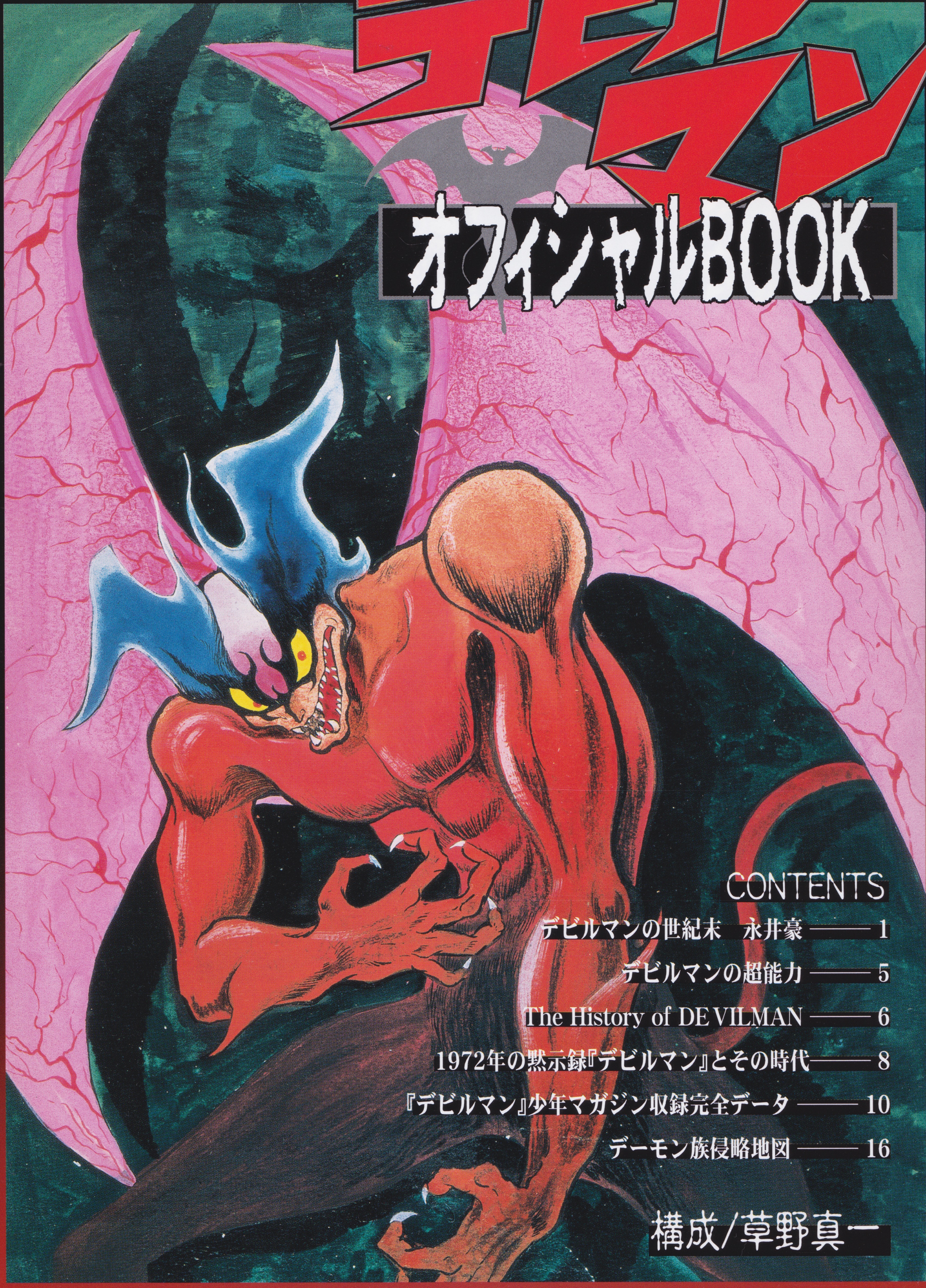
―PROLOGUE―

悪魔の肉体に宿る人間の心。少年不動明は、デビルマンとなったその日から、人間以外のもの＝悪魔と、人間との境界に立たねばならなかった。異生物でありながら人間である、という矛盾を抱え込んだ少年は、その日以来、「人間であること」の意味と価値に直面し、それと向き合っていくことになる。

『デビルマン』は、境界に立たされ、矛盾にひきさかれた人間の物語だ。悪魔と人間の間に立つ少年。男女両性を具有し、悪魔と天使の性質をもつサタン。二人の男の愛憎の間で、それと知らず犠牲となって死んでいく少女・美樹。

人間が人間という存在にふんぞりかえり、便利だ素敵だ万能だともてはやした技術によって、現在、多くの生物が生きる場所を失い、それは人間自身にも及びつつある。人間とは何であり、どうあるべきなのか。『デビルマン』は告発し、インスパイアしつづける。

デビルマン オフィシャルBOOK



CONTENTS

構成/草野真一